

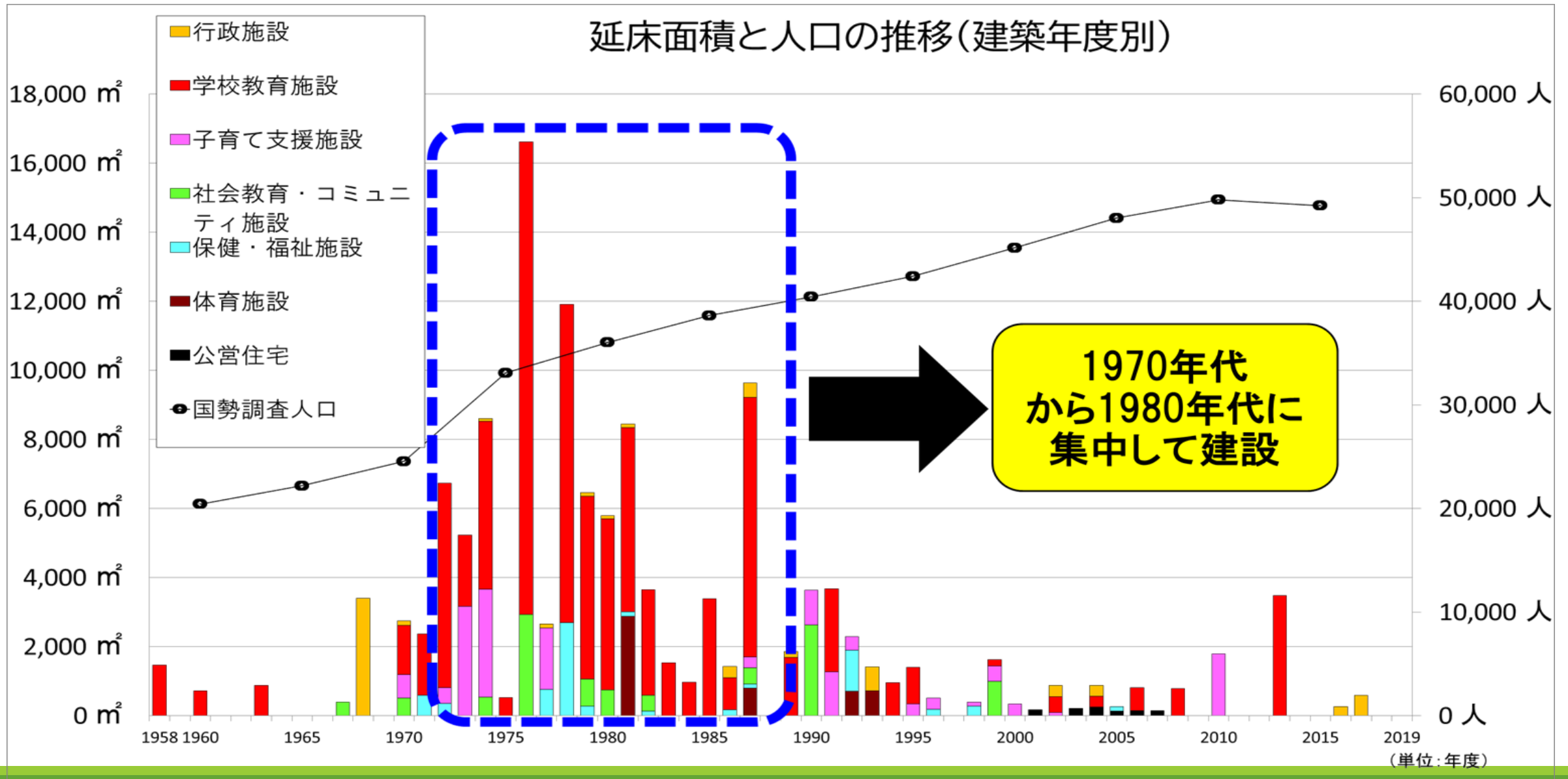
東浦町の公共施設 の現状と課題

～持続可能な公共施設を目指して～

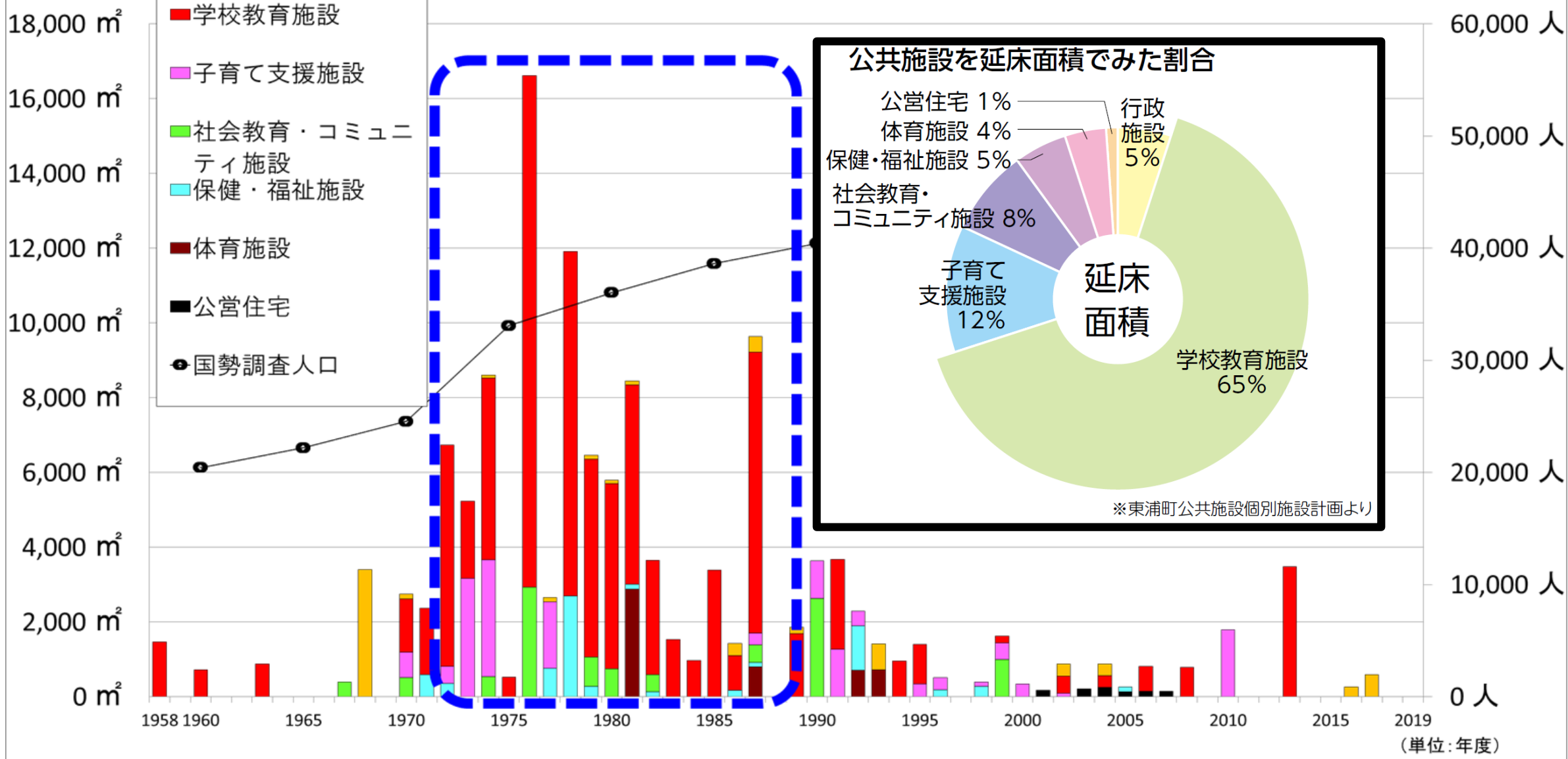
目次

- 1 東浦町の公共施設
 - (1) 建物
 - (2) 財政状況
- 2 公共施設を取り巻く課題
- 3 基本的な方針

1 東浦町の公共施設 (1) 建物

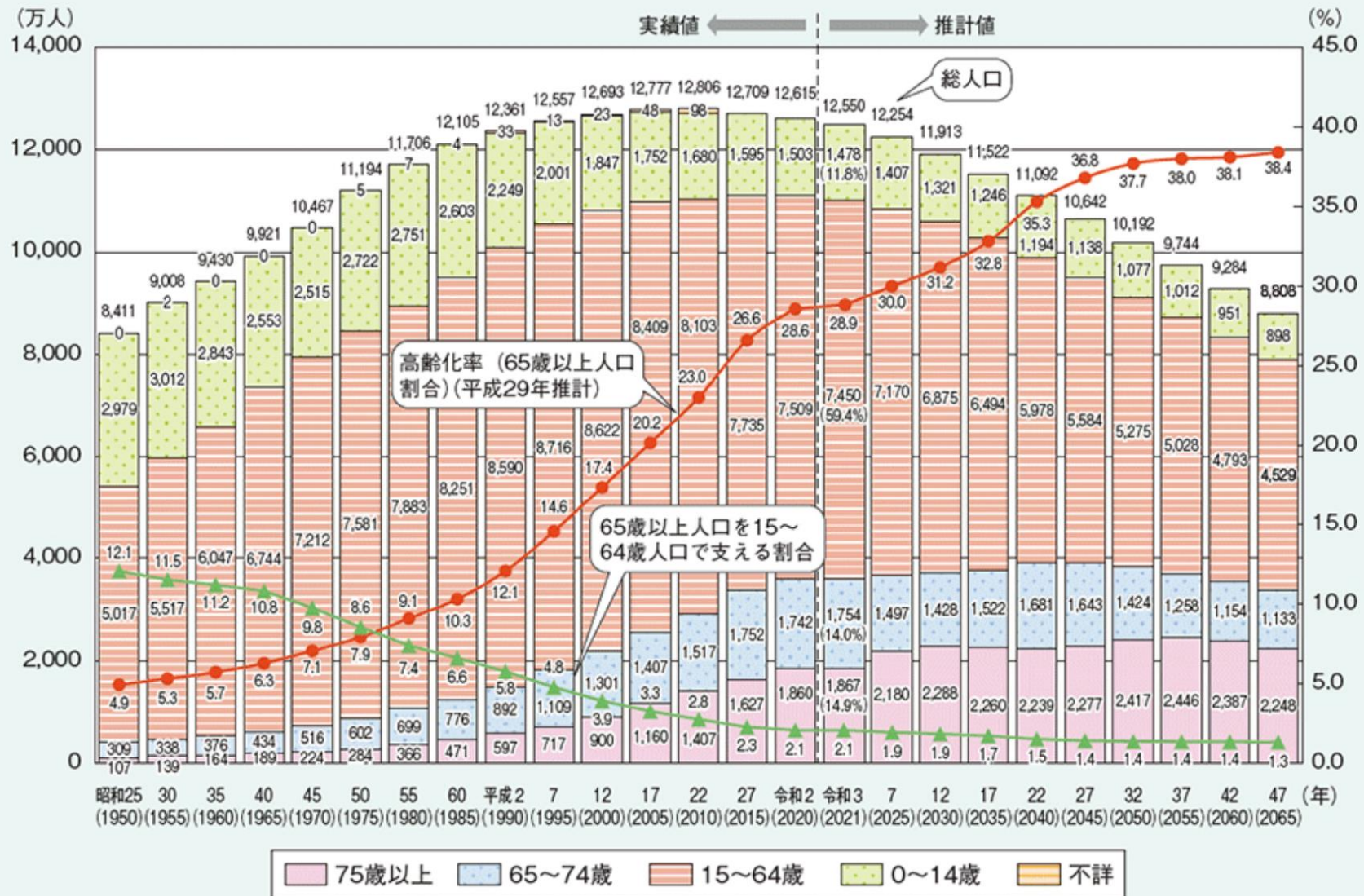


延床面積と人口の推移(建築年度別)

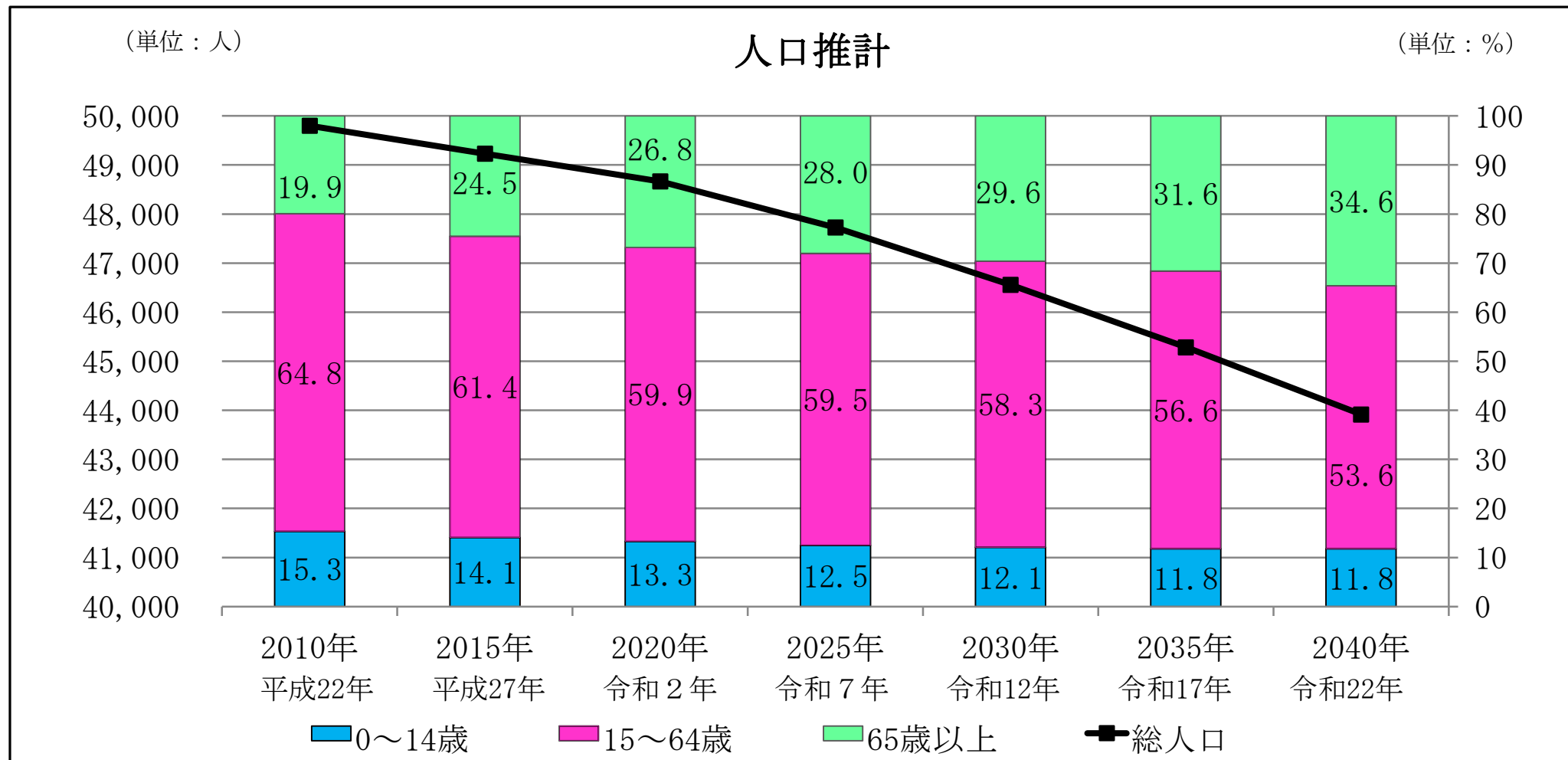


人口減少や少子高齢化の進行に伴い、社会構造や行政ニーズは変化

図1-1-2 高齢化の推移と将来推計



東浦町も、人口減少、生産年齢人口は減少



東浦町の公共施設の中で一番古い建物はどれ？

A. 役場本庁舎



B. 東浦中学校
第2屋内運動場
(飛翔館)



C. 緒川新田児童館
(緒川新田老人憩
の家併設)



No. 2

A. 役場本庁舎



1968年(昭和43年)建築

54年経過

No. 1

B. 東浦中学校
第2屋内運動場
(飛翔館)



1958年(昭和33年)建築

64年経過

No. 3

C. 緒川新田児童館
(緒川新田老人憩
の家併設)



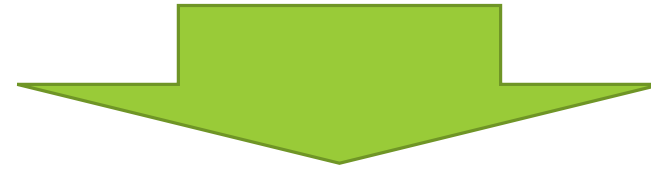
1973年(昭和48年)建築

49年経過

Q 東浦町に、町の公共施設

はいくつある？

	施設数	棟数	延床面積
合計	62施設	178棟	133,901m ²



文化センター 67個分

合計	62	178	133,901
----	----	-----	---------

施設類型	施設名	施設数	棟数	延床面積 (㎡)	備考
行政施設	庁舎	1	8	5,663	
	消防団詰所	6	6	600	
	防災倉庫	3	3	723	
	総合ボランティアセンター	1	1	147	
学校教育施設	小学校	7	57	51,076	
	中学校	3	29	32,987	
	学校給食センター	1	1	3,475	
子育て支援施設	保育所	8	10	10,951	
	児童館 総合子育て支援センター	7	11	4,368	○緒川児童クラブ室の棟数は北部防災倉庫に含む。 ○石浜西児童館の施設数及び棟数は総合子育て支援センターに含む。
	なかよし学園	—	1	324	施設数は森岡保育園に含む。

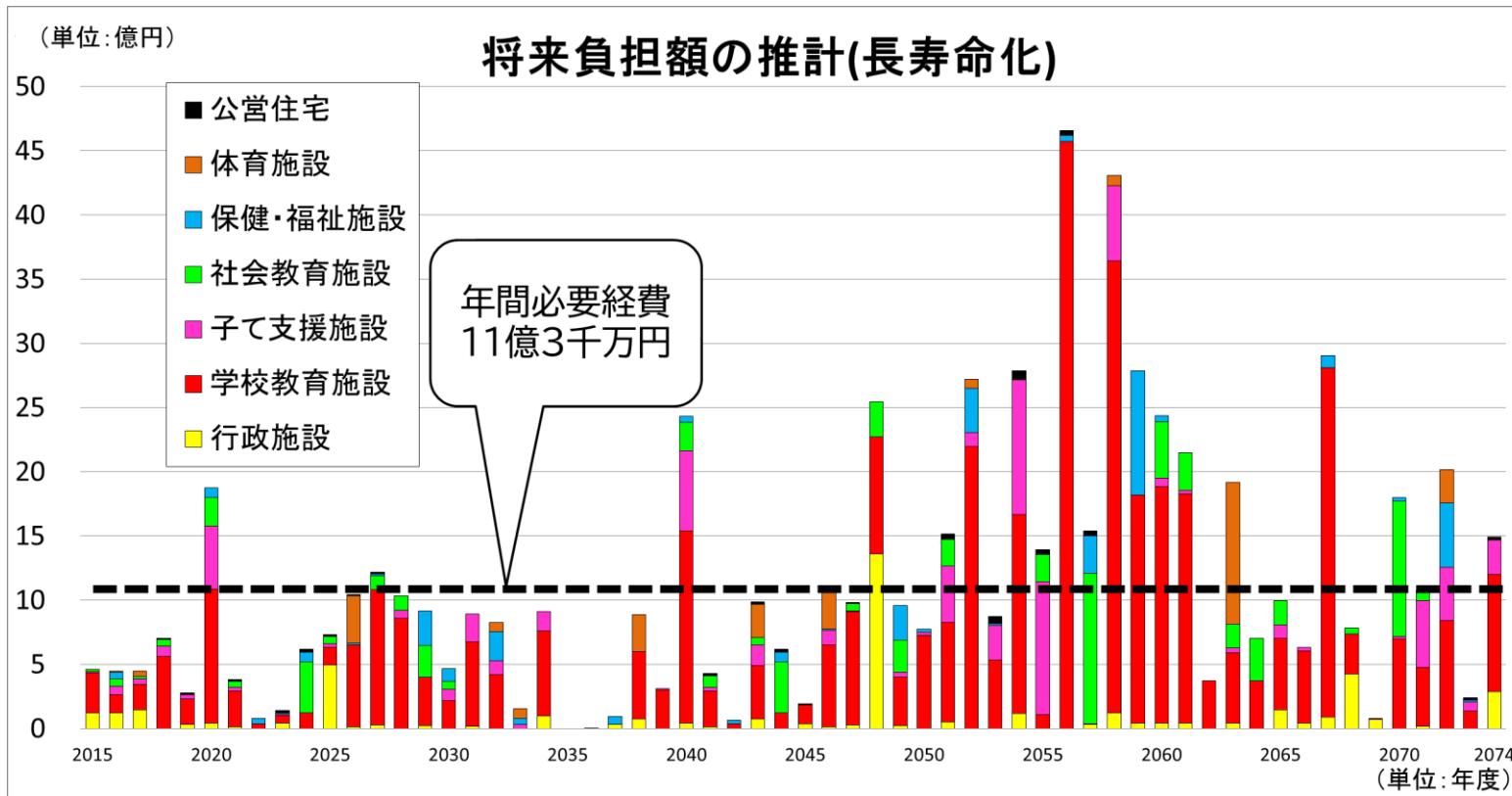
社会教育・コミュニティ施設	文化センター	1	1	1,994	
	コミュニティセンター 藤江公民館	6	6	4,371	緒川コミュニティセンター駐車場(児童クラブ、北部防災倉庫下駐車場部分)の棟数は北部防災倉庫に含む。
	中央図書館	1	1	2,635	
	郷土資料館	1	3	1,000	
	はなのき会館	—	—	453	施設数及び棟数は体育館に含む。
	旧高齢者ふれあい施設ひだまり	—	—	114	施設数及び棟数は総合ボランティアセンターに含む。
保健・福祉施設	福祉センター	1	1	1,187	
	老人憩の家 東ヶ丘交流館	7	8	1,987	緒川新田老人憩の家の施設数及び棟数は緒川新田児童館に含む。
	保健センター	1	2	1,040	
	勤労福祉会館	1	1	2,579	
	高齢者相談支援センター	—	—	115	施設数及び棟数は勤労福祉会館に含む。
体育施設	体育館	1	1	2,872	
	ふれあいセンター 藤江コミュニ	3	3	2,233	
公営住宅	町営住宅	2	24	1,008	
合計		62	178	133,901	

1 東浦町の公共施設 (2) 財政状況

60年間に想定される維持管理・更新費用

681億2千万円

※目標耐用年数(鉄筋コンクリート造80年の場合)
光熱水費等のランニングコストを含まず



今のまま施設を維持し続ける
には、
毎年11億3千万円必要！

公共施設にどの程度、お金をかけられる？

過去10年の修繕及び更新費用を集計すると...

建物

2010	320,876,955
2011	71,248,800
2012	715,287,562
2013	130,130,490
2014	244,261,440
2015	463,045,680
2016	463,598,532
2017	457,545,386
2018	712,892,448
2019	284,353,760
合計	3,863,241,053

÷ 10 = 386,324,105円
年 3億8千6百万円



2015年度～ 2074年度の60年間で
約681億2,000万円が必要。

年間にすると約11億3,000万円が必要



町で公共施設(建物)の更新・修繕にかけた
経費(過去10年)の年平均は**約3億8,000万円!**



つまり、「今」ある施設を「同じ姿のまま」
更新・修繕しようとする...
毎年、**約7億5,000万円が不足**します。

「インフラ」も、多数保有している

○インフラの状況(2019年4月1日現在)

施設類型	種別	延長、箇所数
道路	路線	398.847km
	橋りょう	71橋
河川	準用河川	5.2km
	普通河川	22.3km
上水道	—	306,399m
公共下水道	雨水	25,682m
	汚水	184,578m
公園	都市公園(総合公園含む)	58施設
	ふれあい広場	25施設
農業用排水機場	—	9施設

今後 年11億円必要

年8.8億円投資
(過去10年実績)



年2億2,000万円不足

税金の使われ方

図1 普通会計決算の推移（歳入）

(単位：億円)

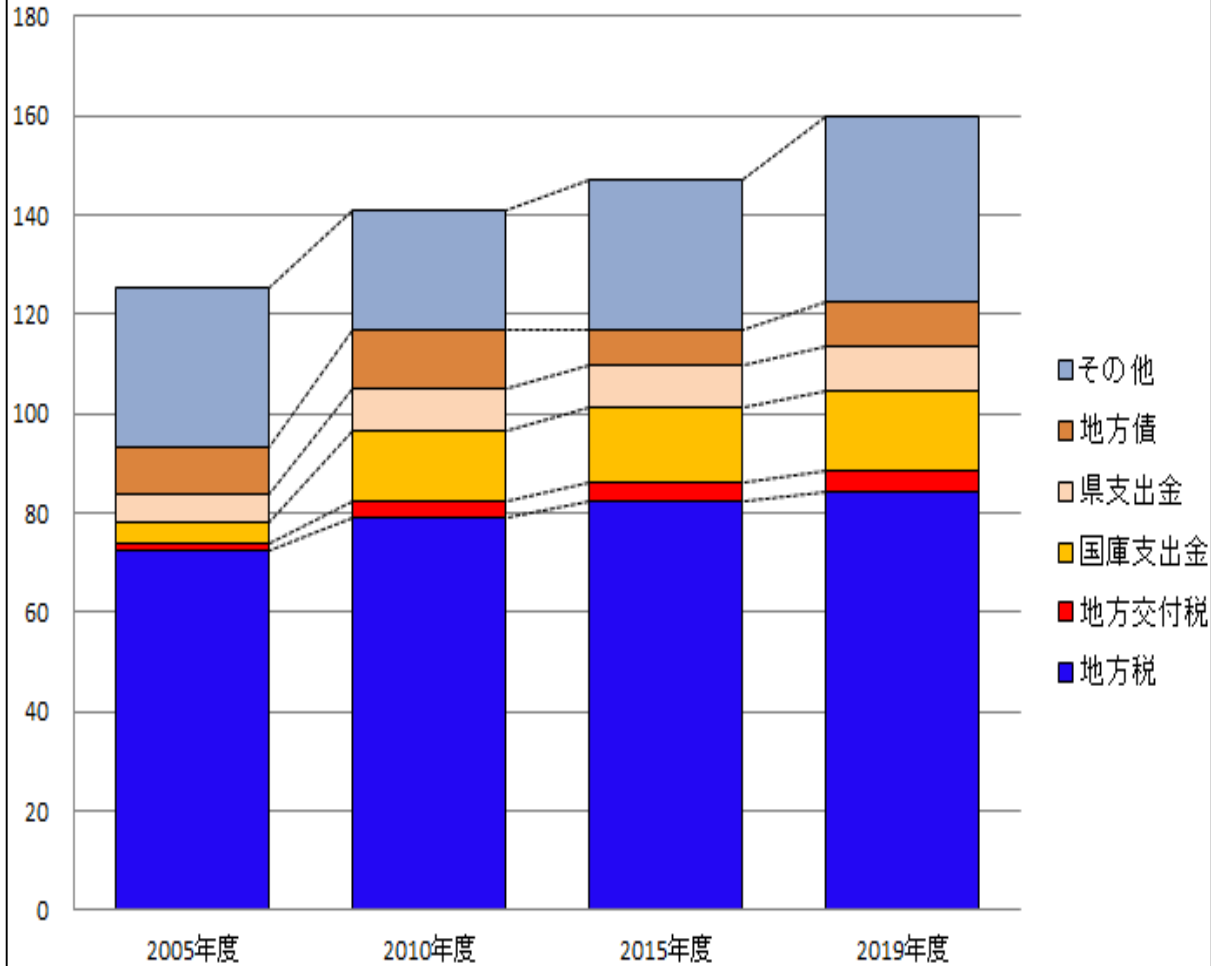
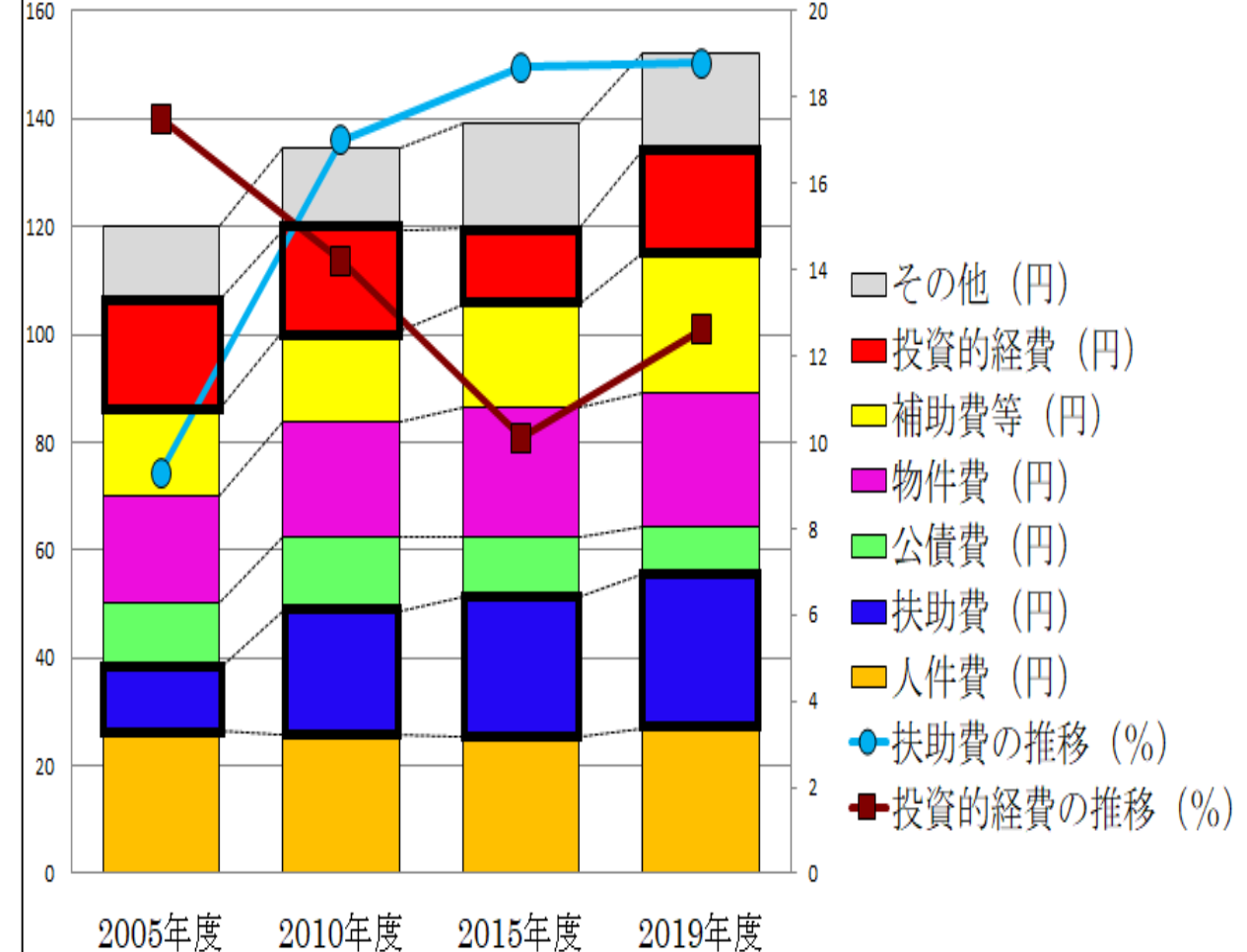


図2 普通会計決算の推移（歳出）

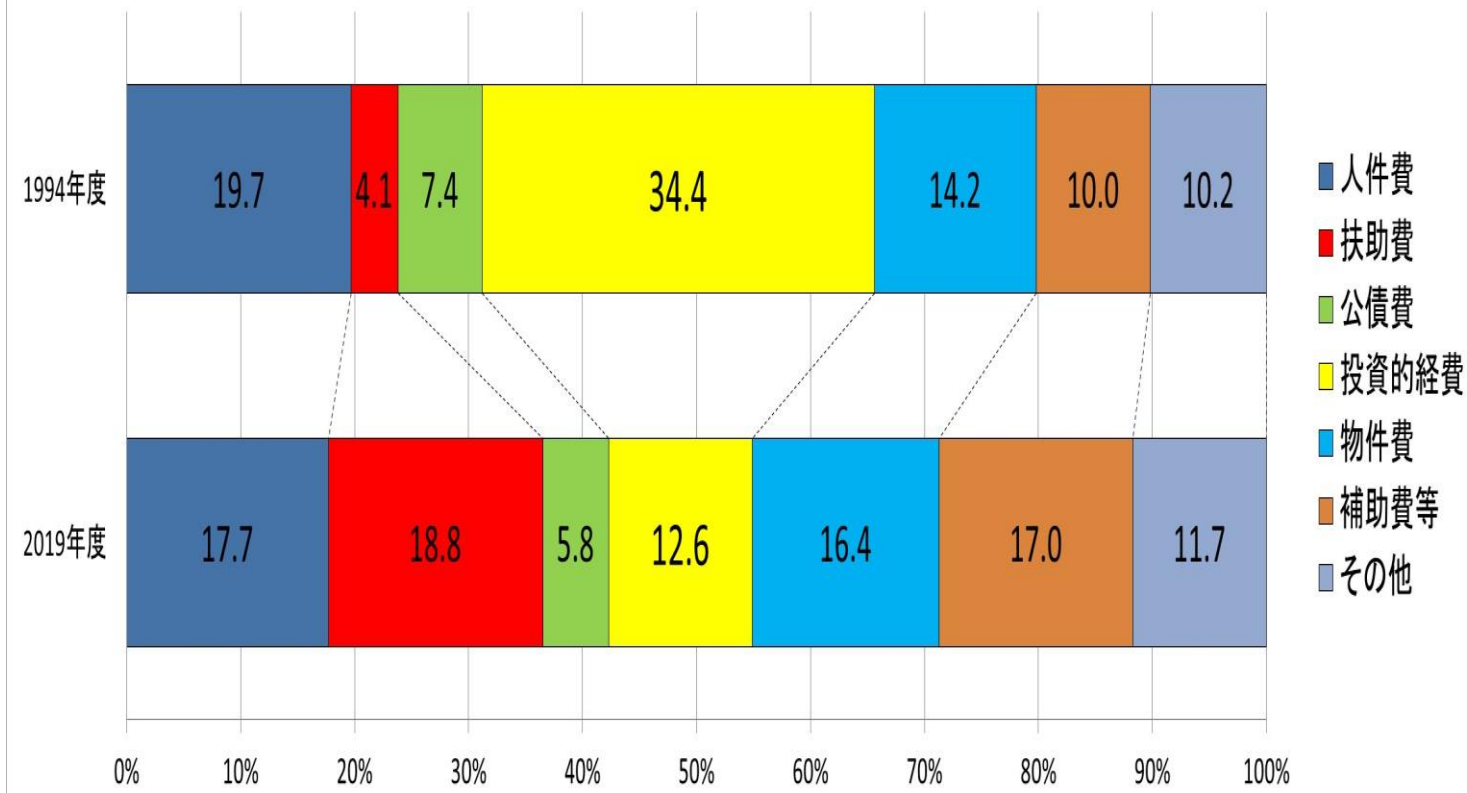
(単位：億円)

(単位：%)



1994年と2019年で歳出の目的を比べてみると

図3 1994年度と2019年度の歳出割合比較（普通会計）



<歳入歳出の課題>

税金は人口減少等により
今後減少

維持管理・更新にかけられる
お金の割合は、扶助費の増
加に伴い減少

扶助費の割合 14.7ポイント ↗

投資的経費の割合 21.8ポイント ↘

2 公共施設を取り巻く課題

- 1 高度経済成長期に集中的に建設された施設が
今後一斉に更新時期を迎える
- 2 人口減少(特に生産年齢人口)に伴い、歳入は減少
- 3 ふくし関係費が増加する一方、
公共施設・インフラにかけられる経費は減少
- 4 しかし、安心・安全な公共サービスは提供しなければならない

3 基本的な方針

○点検・診断、安全、維持管理・修繕、耐震化、長寿命化、ユニバーサルデザイン化

○サービスの必要性の検討 及び 施設の機能・利用実態を踏まえ、
施設統合、集約、廃止、縮小を図り、施設の最適な配置を考える

※駅周辺などの利便性が高い場所 や 地域の核となる小中学校に、
拠点的な複合施設を整備するなど、利用者に付加価値を提供できるような集約

○PPP/PFI・指定管理など民間の力を活用

(東浦町公共施設等総合管理計画より)

東浦町公共施設再編計画 策定中

コストを抑える工夫や仕組み + 魅力的な公共施設のあり方

→ 「ハコ」と「サービス(機能)」は、別々に考える

* PPPとは……行政と民間が連携して公共サービスの提供を行う仕組みのこと(PFIや指定管理はPPPの手法の一部)